



学校だより

青森県立八戸第一養護学校
令和6年3月26日(火)発行

感謝とお礼

校長 小松崎 明

3月末とはいえ、2月に降った雪の影響で学校の周りには多くの雪が残っています。でも、春は確実に近づいています。

さて、このたび、私は、役職定年により、3月末をもってハー養の校長を退くこととなりました。

これまで我々は、60歳が定年退職でしたが、定年延長の制度変更により、私の年代は1年間延長、61歳が定年退職となります。ただし、校長としては、60歳で役職定年ということで、私も3月31日で校長を退任することになります。

これまで何度も申し上げてきましたが、私が教員として初めて勤務した学校がハー養でした。昭和61年のことです。当時、学校は石手洗にありました。今よりも小さな学校で、小学部4年生の子どもたち6名に初めて授業したことは今でも覚えています。その後、平成元年6月にはまなす学園(現在のはまなす医療療育センター)とともに、この大久保へ移転しました。

ハー養での13年間では、青函連絡船を利用した函館への修学旅行、はまなす学園と合同での療育キャンプ、子どもたちとの魚釣りやテント宿泊、さらには、お米づくりやするめづくりなど、たくさんの思い出をつくることができました。そして、何とんでも、念願だった高等部設置(平成8年)が忘れられません。教員としてスタートしたハー養の勤務と子どもたちへの指導は、私に教員の楽しさを味わわせてくれるとともに、教員人生の基礎をつくってくれたと感じています。

その後、20数年ぶりに再びハー養へ校長として赴任しました。ハー養への赴任を聞いたとき、私は、ハー養へ戻ることができる喜びと縁を感じました。

校長として、2年間本校に勤務しましたが、大変中身の濃い充実した日々を過ごすことができた振り返っております。私は、時間があるときには校内を歩き、各学級の授業の様子を見ていました。それぞれの学級では、子どもたちが友だちや先生と大きな声を出し活動を楽しんだり、学習に一生けんめい取り組んだりしており、私はその子どもたちのがんばる姿が大好きでした。また、先生方も子どもたちの得意なことを伸ばそうと授業を工夫していることがよくわかりました。まさに、「みんなで みんなを」の思いが伝わる授業が多く、大変ありがたかったです。子どもたちの前向きにがんばる姿と先生方の子ども一人一人に寄り添う姿を見て、これがハー養のよさであり、ハー養がこれまで大切にしてきた素晴らしいところだと感じていました。

校長としては、2年間という短い期間ではありましたが、私のこれまでの38年間の教員人生の中の15年間はハー養でした。今まで出会った多くの子どもたちといつも励ましの言葉をかけてくださった保護者の皆さま、そして、はまなす医療療育センターをはじめ地域の皆さまにこの場を借りて感謝とお礼を申し上げます。

ハー養がこれからも子どもたちの笑顔にあふれるとともに、未来に向かって前進していくことを祈っています。本当にありがとうございました。

